

## The ALL Rooms の現在と未来

教育推進総合センター 濱田 陽

### The Current Situation of the ALL Rooms and Their Future

Yo HAMADA

**概要：**「学生による学生のための語学自学自習システムの構築」をテーマにして作られた The ALL Rooms がオープンして二年が経過した。よりよいシステム作りのために日々試行錯誤を重ね、進化している The ALL Rooms について、(1) 現在のシステムとそこに至るまでの経緯に関する詳細、(2) 年間延べ人数 1,000 人を超えるユーザーの現在の利用状況、(3) 今後さらなる国際化に向かう現状を踏まえた、今後の課題と展望の 3 観点から検証・討論をおこなう。

#### 1. はじめに

秋田大学独自の The Autonomous Language Learning Rooms (The ALL Rooms) がオープンしてから、2 年以上が経過した。The ALL Rooms の理念・構築の基礎の詳細については Sykes (2011) をご参照頂きたいが、簡単にまとめると、「学習者中心の教育」を基本方針とする吉村プラン (吉村, 2012) の方針にのっとる「学生による学生のための語学学習設備」であり、「学習者が自立して語学を学習していくこと」が基本理念である。そこで、本稿では、2 年を振り返り、どのようにシステムを改良し、現在に至っているのか、そして、これまでの利用者の様子や、The ALL Rooms の活用法を説明し、さらに、今後 The ALL Rooms が向かうべき方向性について考察する。

#### 2. The ALL Rooms とは

Autonomous language learning (自律的語学学習) は、近年言語習得分野において、注目されてきている分野であり (Benson, 2011), 自律性を育むことで言語習得をより効果的におこなうという概念を基盤としている。The ALL Rooms は基本的にはオールイングリッシュの環境であり、学内で唯一英語を共通語としている空間である。学習支援棟の 2 階にあり、4 つの部屋と英会話用の

共有スペースから構成される。4 つの部屋の 1 つが Material Room であり、学習教材を配置し、学期中は必ず学生スタッフが一人以上常駐している。利用者は最初にこの部屋に入り、簡単な手続きを終え、利用を開始する。Material Room の他の 3 部屋には 2～3 台のパソコンが設置されており、利用者は、各自の目的に合わせて使用する。

まず、2011 年 10 月のオープンからのおよそ 2 年を振り返るために、The ALL Rooms の軌跡を表 1 に示す。立ち上げには教育文化学部の英語教育専門の教授が中心となり、当時採用された教育推進総合センターの英語専任教員 2 名が加わり、オープンさせた。

もともと存在しなかった設備であり、新たに構築したことから、よりよい環境設備をおこなうこととともに、学内への周知が課題であるため、さまざまな機会を利用して、広報活動をおこなっている。なかでも、HP 作成 (2011.3 ; 2012.10) は The ALL Rooms の独自性を発揮しており、「学習者中心の教育」を反映している。HP のトップページには、学生の演じる The ALL Rooms の簡単な紹介の動画を掲示し、さらに、様々な学習方法を動画つき (学生が実演したもの) で紹介している。(The ALL Rooms, 2012) 近年流行している facebook にも The ALL Rooms のコミュニティを

作成し、イベントの告知や、交流をおこなっている。使用言語は英語であるため、利用者とスタッフは実践的な英語をためすこともできる。

表 1. 主な活動実績

| 時期      | 活動内容                       | 備考                |
|---------|----------------------------|-------------------|
| 2010.10 | オープン                       |                   |
| 2011.2  | スタッフ研修                     | 新旧交代              |
| 2011.3  | HP 作成                      |                   |
| 2011.9  | オープンキャンパスで紹介               | 外部発信              |
| 2011.10 | 学祭出店参加                     | 広報                |
| 2011.11 | Halloween party            | 国際交流会館にて          |
| 2011.12 | Facebook page 作成           |                   |
| 2012.2  | スタッフ研修                     | 新旧交代              |
| 2012.3  | パンフレット作成                   | 広報                |
| 2012.4  | Newsletter. No.3 発行        | 広報                |
| 2012.5  | 留学説明会にて TOEFL・All Rooms 紹介 | 広報                |
| 2012.9  | オープンキャンパスで紹介               | 広報                |
| 2012.10 | 紹介動画作成<br>HP 更新            | 広報                |
| 2012.10 | Halloween party            | 国際サークル（ポッターレス）と共催 |
| 2012.11 | ポットラックパーティ                 | 国際交流センターにて        |

また、今年度は、単独の設備として閉ざされた空間として存在するのではなく、様々な分野と共存して、相乗効果による効果的言語習得のために、学生同士が連携して、国際サークルとイベントを共催したりしている。国際化の視点を広げるために、教育推進総合センターの教員と国際交流センターの教員・事務職員が打ち合わせをおこなったうえで、学生が主導権が企画運営をおこない、ポットラックパーティなどのイベントを開催したりしながら留学生と日本人学生が異文化の交流をする場面も提供している。

また、毎年スタッフが若干変わることから、業務の引き継ぎと新たな関係づくりを目的として、2月にはスタッフの研修が行われている。そこでは、The ALL Rooms の方針の確認や、実際に言語習得理論を学んだり、システムについての討議をおこなったり、The ALL Rooms 運営に関わる事項全般を取り扱っている。研修は通常1泊2日で、最初から最後までオールイングリッシュで、スタッフ自身も英語漬けになる濃密な時間である。

### 3. 現在のシステム

#### 3-1. 体制について

The ALL Rooms の仕組みを図1に示す。まず、責任者として、教育推進総合センターの専任教員3名を置く。英語教育・応用言語学を専門とする日本人教員1名が中心となり、他2名は文学を専門とするアメリカ人教員が適宜サポートにあたる。平成25年度は、学生スタッフのリーダー・教員とのパイプ役として学生コーディネーターを日本人一名・留学生一名に任命した。学生コーディネーターは、月一回のミーティングの前に日本人専任教員と議題についての討論をおこない、適宜、学生スタッフからの意見を集約したり、教員からの要望を学生スタッフに伝達したりした。そして、学生スタッフとして日本人の学生を6名、留学生を3名採用した。9名の学生スタッフは、それぞれ、週2回のシフトで学生への援助をおこない、以下にあげる各コーディネーターの役割をになった。コーディネーターの種類として、英会話サークルコーディネーター・イベントコーディネーター・広報コーディネーター・マネジメント（事務処理）コーディネーターを設けている。

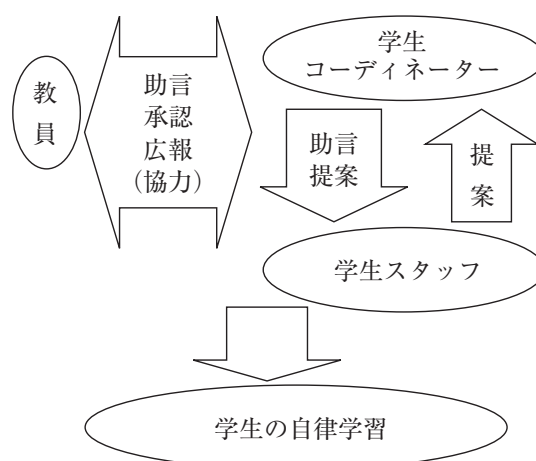


図1. The ALL Rooms の仕組み

スタッフの採用はセンター専任教員がおこなう。日本人スタッフに関しては、11月から12月にかけて、日常のコミュニケーションの中で次年度の継続・非継続の意向を伺い、1月に公式な面接をおこない、勤務状況や各バランスを考えて、継続か非継続かを決定する。その後、欠員に対してfacebook上などで応募を行い、下旬には決定

する。新規スタッフは多くの場合、利用者の中から採用する。その理由は、スタッフには即戦力が必要で、仕事をおこなう際に、The ALL Roomsの利用方法や特徴を既知に知っていて、なおかつ意欲がある学生を必要としているからである。

また、スタッフがシフトに入って学生に学習支援をおこなう際、AUSS (Akita University Student Staff) の略。学生の経済的支援と正課外学習経験を目的としたインターンシップ型学内業務の補助。平成21年度より各種学内アルバイト等を取りまとめる形で、効果的に実施している(吉村, 2012)により、賃金が支払われている。これは、本学独自の、学生のためのシステムであり事業であり、特色である。しかし、スタッフにはシフト内での基本給は発生するが、採用の際に、金銭のための仕事ではなく、己の向上とボランティア精神が必須となることを確認している。つまり、労働の対価として賃金を支払うという形態ではなく、あくまでスタッフ自身と他の学生の語学力向上を「自律的に」おこなうことに対する援助としての賃金であるというコンセプトである。

そして、スタッフの共通理解とさらなる向上を目的とし、月一回ミーティングをおこなっている。ミーティングでは、方針の確認や、問題点の把握・改善策の協議などを行っている。たとえば、次月のイベントの周知方法や、仕事の分担を話し合ったり、伸び悩んでいる利用者の数についての原因を検証したり、スタッフの姿勢についての再考をしたりしている。毎月木曜日の昼休みに開催するため、限られた時間で効率よくおこなう必要性がある。そのため、事前に話し合う内容はfacebook内のスタッフコミュニティーに学生コーディネーターがアップし、学生スタッフは事前に確認できるようにしている。

教材(表2)の追加や環境整備の改善は適宜おこなっており、利用者の学生のニーズに応えるため、教材購入のリクエストがあった際はその都度シフトに入っているスタッフがコンピュータ内のファイルに登録し、週一回教員に報告している。そのリクエストについては教員が適性や他の教材とのバランスを考え、購入を検討する。利用者に人気があるのは、海外ドラマやジブリの英語版、そして資格対策の本などである。

表2. The ALL Rooms の学習教材例

| 分野     | 教材                   | 備考           |
|--------|----------------------|--------------|
| リスニング  | シャドーイングDVDs          | 多彩な分野        |
| ライティング | TOEFLのライティング用対策本     | アカデミックライティング |
| リーディング | 多読教材(Graded readers) | レベル別         |
| スピーキング | スタッフとの英会話            | 日常会話         |
| 学習方法   | 言語習得入門               |              |

### 3-2. 学生スタッフの仕事内容

つぎに、スタッフの仕事内容についてまとめる(表3)。各スタッフは平均で週2回シフトに入っている。以下に、スタッフの仕事についての詳細を述べる。

表3. スタッフの仕事内容

| 職位     | 活動内容  |
|--------|---|
| 英会話    | 英会話サークル・英語教授法サークルの運営・管理                             |
| マネジメント | 月ごとのスタッフのスケジュール・シフト管理・書類管理                          |
| イベント   | Halloween, thanksgiving, movie nightなどの企画・運営        |
| 広報     | 新入生への説明・チラシ配布                                       |
| その他    | ニュースレター管理<br>学生スタッフ管理<br>その他細かい作業<br>facebook ページ管理 |

#### 3-2-1. 英会話コーディネーター

週一回ないし二回の英会話サークルの企画・運営をおこなう。学期の最初にアナウンスをおこない、最初に集まった日にその学期の開催日時を決定する。翌週のサークルのトピックを参加者と決め、人数が多い場合はレベル別に分けておこなう。また、参加人数を記録する。次回の参加の意思表示を毎回確認して参加予約シートに記入する。

#### 3-1-2. マネジメント

The ALL Rooms 設立当初当初は存在しなかった役であるが、本年度は、大学院生と外国人研究生を任命した。学生スタッフのリーダー的存在で、学生スタッフ側からの意見を集約し、教員と全体ミーティングの前に協議する。また、スタッフの勤務状況や利用者の状況を把握し、適宜必要な仕

事をおこなう。教員から直接ではなく、学生の運営を促進させる目的で、スタッフと教員の橋渡しの役である。

### 3-1-2. ベントコーディネーター

The ALL Rooms 活性化を目的とし、様々なイベントの企画と運営をおこなう。広報の媒体としては facebook や 口コミ、チラシ配布などが多い。本年度は、国際サークル「ボーダーレス」との共催が多いため、ボーダーレス側との打ち合わせや意思疎通をおこなっている。また、国際交流課と共催でおこなったポットラックは、国際課に掛け合い、日時設定や開催場所の確保をおこなった。

### 3-1-3. その他のコーディネーター業務

その他にも広報・ニュースレター・スタッフ管理などのコーディネーターがある。その学期の状況に合わせ、適宜、コーディネーターの数や担当人数を増減させている。基本的に日本人の各スタッフは一人最低一つのコーディネーターを担当することになっており、スタッフ自身も責任感と創造性を磨く狙いがある。

### 3-1-4. 日々の仕事

日々の仕事の方針には4つある。まず、もっとも優先すべき事項は、利用者が訪れた際、利用者に合わせて、最大限のサポートをおこなうことである。その際、接客業と同じようにそれ相応のコミュニケーション能力が求められる。利用者が訪れた際は、心理的フィルターをあげないよう、できるだけ笑顔で“Hi, Hello. How can I help you?”などから会話を始める。利用者から、「慣れるまで部屋に入るのに勇気がある」とのフィードバックが多かったことから、この点についてはミーティングの際にもスタッフに随時確認している。言語習得上、学習者の不安は大きな問題であり、学習動機とも大きく関連している（八島，2003）。並行して2つ目は、利用者の目的に合った学習方法をスタッフ自身が学習するという事である。つまり、言語習得の基礎知識・The ALL Rooms で使用できる教材に関する知識・その活用法の3点は身につけておく必要がある。具体的には、スタッフの常駐する Material Room に備える教材に関して把握し、どの教材をどのような目的

で使用すべきかを理解しておくことである。3つ目は、資格対策希望の利用者も多数いることから、スタッフ自らの最低限の英語力を研磨することである。最低でも TOEIC730点、TOEFL500点(iBT61点) レベルを目標としている。Murphy and Arao (2001) が主張するように、Near Peer Role Model (学習者の身近なロールモデル) は、他の学習者をよい意味で刺激し、動機を高める働きがあるため、スタッフには他の学生の模範となる存在であることが求められる。4つ目は、自主性である。利用者と接していない時間帯は、各自が責任を担っているコーディネーターの役割を果たすことと、教材の把握や使用法の研究をおこない、最大限に活用する。

### 3-2. 学生の利用方法

The ALL Rooms は現在、平日（長期休業期間を除く、授業のある日の2限から5限（10:30 - 17:40, 12:00 - 12:50 は昼休み））に利用できる。

最も基本的な使用方法としては、The ALL Rooms に興味を持った学生はまず、学生スタッフの常駐する Material Rooms で簡単な説明をうけ、メンバー登録をおこない、発行されたメンバーズカード（図2）をうけとる。その後、自らの目的に応じて教材を選んだり、計画を練ったりする。その際、学生スタッフに相談しながら、計画に対するアドバイスや、適した教材を進めてもらう事ができる。2回目以降も同じである。

|   |        |        |   |
|---|--------|--------|---|
| Please join us!                                 |        |        |   |
| Music Circle / Manga Circle / etc.              |        |        |   |
| Movie Circle / Acting Circle / Writing Circle / |        |        |   |
| Conversation Circle / Reading Circle /          |        |        |   |
| The ALL Rooms Circles                           |        |        |   |
| http://www.akita-u.ac.jp/allrooms/              |        |        |   |
| The ALL Rooms Official Web (english)            |        |        |   |
| http://www.facebook.com/groups/allrooms/        |        |        |   |
| The ALL Rooms Community on Facebook             |        |        |   |
| The ALL Rooms                                   |        |        |   |
| MEMBERSHIP CARD                                 |        |        |   |
| A bridge between you and the world!             |        |        |   |
| ID: 1512999                                     |        |        |   |
| NAME: Ritsuko Akita                             |        |        |   |
| E-mail: ritsuaki@imail.com                      |        |        |   |
| My Goal   |        |        |   |
| To study abroad                                 |        |        |   |
| My Need(s)                                      |        |        |   |
| take TOEFL, listening & speaking                |        |        |   |
| 9/16②   | 4/16③  | 4/17③  | / |
| Syles   | Hamada | misato | / |
| /   | /      | /      | / |
| /   | /      | /      | / |
| /   | /      | /      | / |
| /   | /      | /      | / |

図2. メンバーズカードの例

具体的な入室から退出までの一般的手順を以下に示す。

- (1) Material Room に入室し、カードをスタッフに手渡しする。
- (2) スタッフが日時等をカードに記入している間に、教材を選ぶ。
- (3) スタッフが教材の管理番号をチェックし、利用者は部屋を選ぶ。
- (4) サインインが終了し、学習を開始する。
- (5) 学習終了後、教材を Material Room にいるスタッフに返却する。
- (6) メンバースカードを受け取る。
- (7) サインアウトが完了し、退出する。

次に、さらなる活用方法とし、細かく述べる。Materials だけでも複数の分野の教材をそろえており(表2)、大きく分けて(1)留学対策(TOEFL)(2)資格対策(TOEIC)(3)英語力向上全般(DVDs, 本)などがある。教材はセキュリティの関係上、基本的に The ALL Rooms のフロアからの持ち出しは禁止している。また、英会話へのニーズが高く、英会話サークルを週一回開催している。人数が豊富な際は、レベル別に分け、レベルにあった会話をおこなっている。

### 3-3. 具体的学習方法の例

#### 3-3-1. リーディング

お勧めは Extensive Reading (多読) と呼ばれる、近年注目されている方法である。Graded Readers という各学習者のレベルに沿った難易度の英語で書かれた洋書を大量に読むことで、読解力をつけることができる。英語の苦手な学習者でも難なく読むことのできる平易な英語で書かれている本から、読み応えのある英語で書かれている本まで備えられているため、どの学習者も効果的に利用できる。教材選択の際の目安は、100 単語内に未知語は 5 語以下が理想とされている。さらに、その範囲内であれば、自然と未知語も習得することができる (Nation, 2001)。また、付属で CD もついているため、CD を聞きながら読むことで同時にリスニング力も高めることができる。

#### 3-3-2. リスニング

近年注目されているシャドーイング (門田, 2012; Hamada, 2011) をお勧めする。シャドーイングとは、日本人の苦手な、英語の音そのものを

聞き取る力を鍛える訓練法である。シャドーイング用の教材は複数用意しており、示された手順にそってシャドーイングをおこなうことで、リスニング力が短期間で向上する。初心者用の教材 (門田・玉井, 2005) から上級者用 (玉井, 2004) まで各種そろえているため、各レベルの学習者に対応できる。上級者は海外ドラマや映画を見ることで、実践的な英語に対するリスニング力を向上させることができる。

また、DVD 教材は、様々な方面のものをそろえているため、医学系・工学系・教育系どの方面の学生も自分のニーズに沿ったものを見つけることができると思われる。その一本をマスターするというリスニング能力向上法も考えられる。

#### 3-3-3. 実践日常英語

セリフの少ない映画ではなく、海外ドラマの DVD を使用することをお勧めする。利用法としては、dictation (聞こえたセリフを書き取る訓練法) を用いることで、語彙の習得と音声識別力と文字識別力が一緒に鍛えられる。また、それと同時に発音に注意し音読したり、気に入った表現をメモにとったりしていくことで、実践的な生の英語がストックされていく。ただ、注意点として、上級者になるまでは、ただ見ても自動的にリスニング力があがり、語彙が増えるわけではないため、楽しみと根気を併せ持って少しずつ積み上げていく必要がある。

#### 3-3-4. 資格対策

TOEFL, TOEIC, 英検対策の教材を各種備えているが、中でも TOEFL の教材が多い。その理由は、就職活動に必要な TOEIC の点数は、ある一種の「道具」と認識して学習する利用者が多いが、一方 TOEFL は本質的な英語力を身につけない限り点数は向上せず、「自律学習」が最も必要とされるからである。教材自体も高額であるが、個人で購入できなくとも、The ALL Rooms を利用することで多くの学生が利益をうけられる。

TOEFL テストで高得点を取得するためには、語彙力の大幅アップが必要であり、そのうえで、各分野の能力・解き方を戦略的に伸ばす必要がある。学習者によって教材の適合度が異なるため、各分野複数の教材をそろえている。

TOEIC 対策教材として、現在 TOEIC 講師の間優れていると評判の単語帳「新 TOEIC TEST 英単語出るとこだけ！」(小石, 2011)をはじめ、実際のテストより少し難易度の高い「TOEIC テストと新・最強トリプル模試 2」(神崎, 小林, 森田, 2010)や、少し易しめな TOEIC 新公式問題集 (ETS, 2009) や、TOEIC 学習法の教材を備えている。

英検対策は、2 級以上の教材を一通り備えている。今後、必要に応じて追加していく予定である。

#### 4. 現在の利用状況

以下に、現在の利用状況を、客観的・主観的の両側面から報告する。

##### 4.1. データ (客観的分析)

ここでは、延べ人数ではなく、今年度の、休業期間を除いた、4 月から 12 月までの一日の平均利用者数を報告する (図 3)。昨年度は、延べ人数で 1000 人以上が利用することを目標として掲げて達成したが、本年度、一日の平均利用者数を基準としたのは、The ALL Rooms の適正人数 (一度に使用できるパソコンが 10 台未満) を考慮して、量より質を大切にしているためである。すなわち、仮に複数の利用者が来たとしても、繰り返しその利用者が利用しない限り、The ALL Rooms を最大限に生かすことができない。一方、リピーターを増やすことを目標にすれば、そのリピーターが The ALL Rooms にて継続的な学習をおこない、より言語習得が効果的におこなわれるということになる。

月間の活動日数は 20 日程度であり、7 月を除いて、一日平均 7～8 名が利用している。7 月は期末試験の時期であり、試験勉強のため利用者が減る傾向がある。利用時間は利用者によって異なるが、多くの利用者は空き時間を利用しているので 90 分程度であるが、長い利用者は数時間集中的に活用していることもある。最大収容人数を考えた際には、一見少ないようにも見えるが、実際は声を出して発音練習をしたり、リラックスして読書をしたり、人のいない空間で集中して資格対策をおこなったりすることもあるため、適正な人数だと解釈可能である。実際、極力他の学生が同時に利用していない部屋が選択される傾向がある。

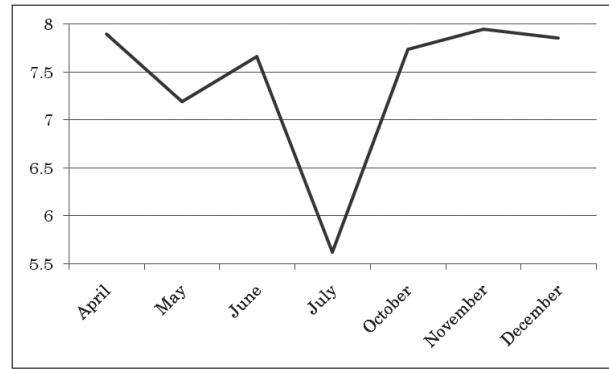


図 3. 平成 24 年度の一日平均利用者数

##### 4.2. 利用者の特徴と利用方法 (主観的分析)

過去二年間の経緯を分析すると、新年度の 4 月 5 月には比較的様々な利用者が訪れる。その後、徐々に利用者はリピーターが主となり、ときに、リピーターの友人も訪れるという傾向である。後期が始まる 10 月も、リピーターとその友人、そして新しい留学生が訪れる。その後もリピーターがメインで利用している。専任教員である筆者も毎日様子を観察するために The ALL Rooms を訪れるため、頻繁に利用しているリピーターが多く、利用している大抵の学生は把握できている。

利用方法は様々であるが、主に、スタッフとの英会話を通して会話力を伸ばす事を目的としたり、TOEFL テストのための学習をしたり、また、DVD を教材として、生の英語や英語文化に触れたりしているケースが多い。

##### 4.3. 効果

The ALL Rooms は各学生のニーズに合わせた学習環境を提供するため、その効果は人それぞれであるが、現在のところ、主要な効果は留学・就職への架け橋と、英会話力の向上であろう。

まず、海外長期留学のために一定の高度な英語力が必要なことは自明の事であるが、The ALL Rooms で働く学生スタッフが留学するケース・TOEFL の基準点をクリアするケース・英語に関係する職につくケースが非常に多い。提携校であるミネソタ州立セントクラウド大学に留学するための最低基準点は TOEFL iBT (61 点) であり、オーストラリアのグリフィス大学の基準点は TOEFL iBT (80 点) / ITP (550 点) である。TOEFL の基準をクリアするだけでなく、また、欧米への留学は枠が狭い。このことから、過去 2 年間でこれ

だけの成果を挙げているスタッフの英語習得に対する努力が見られる。なかでも、TOEICテストでの895点は、3年間のTOEIC講座の受講者の得点と比較しても抜きん出ており、TOEFLテスト550点も、非常に難易度が高い。(表4)

表4. 学生スタッフの活躍例 (旧スタッフも含む)

|   | 所属      | 内容                       |
|---|---------|--------------------------|
| A | 教科教育(英) | セントクラウド大留学               |
| B | 教科教育(英) | セントクラウド大留学               |
| C | 教科教育(英) | 秋田県教諭採用(英)・TOEIC895点     |
| D | 国際      | セントクラウド大留学               |
| E | 国際      | TOEFL iBT 66点, TOEIC815点 |
| F | 国際      | ケミートルニオ応用科学大留学           |
| G | 国際      | グリフィス大学留学TOEFL550(予定)    |

また、利用者の中からも、長期海外留学・インターンシップに出かける数が増えてきている。グリフィス大学、ルーマニア大学、バレンシア・ディズニー半年インターンシッププログラムに派遣される学生の中にも ALL Rooms ユーザーが含まれている。

これらすべての学生(スタッフを含む)に共通して言えることは、皆「自主・自律的」な学習をおこなっていたことである。強制的に学習をおこなうのではなく、自らの目標のために自らの計画を立てて学習をするという The ALL Rooms の理念そのものに合致するユーザーであったため、模範的なユーザーであったと称賛したい。また、The ALL Rooms のコンセプトが正しかったことの証明ともいえるであろう。

#### 4.4. The ALL Rooms からの発信

直接的な The ALL Rooms の活動とは言い難いが、The ALL Rooms からの発信として2点挙げる。まずは、TOEFL テスト対策である。留学生200人計画にのっとなって増加している留学生の数に比例するように、海外留学を希望する学生の数も増えているように思われる。The ALL Rooms の利用者としては望ましい「自律的な学習者」の様子から、海外留学に必要な TOEFL テストの学習方法へのニーズが高い事が伺えた。そこで、24年度は、5月に、(現在アメリカのセントクラウド大学に留学中の) スタッフによる TOEFL テスト学習方法のワークショップをおこない、同時に、

TOEFL テストのための学習用冊子を作成し、いつでも利用者が閲覧できるようになっている。また、25年1月には東京から TOEFL テスト関連書籍の執筆者である有名講師を招聘して、ワークショップもおこなった。平成25年度から留学窓口を一本化する国際交流センターと連携し、留学説明会の宣伝を The ALL Rooms 環境でおこなったり、TOEFL テストワークショップの宣伝も依頼したりしている。特に、カナダへの夏季短期留学やマルタ春季短期留学の参加者には積極的に受講を促すなど、各部局で一体となつての相乗効果が期待される。TOEFL テスト対策教材は個人での購入は高額であるが、The ALL Rooms には教材も豊富で、利用者にとっては理想的環境である。現に、学期中は当然のこと、夏季休業中にも訪れて自習をおこなう姿が本年度は見られた。

次は TOEIC テスト対策である。対策講座自体は3年目を迎え、教育推進総合センター教員の平日の講座と2回の TOEIC 専門講師によるウィークエンドセミナーにより構成されている。TOEFL と違い就職活動や企業向けの英語力指標となる TOEIC の受講希望者は工学の学生が多く、特に就職活動の迫る2,3年生や院生が多いため、The ALL Rooms で学習する十分な時間的余裕がないのが現状である。今後は、The ALL Rooms の利用とどう絡めていくのかがカギとなる。

## 5. 課題と今後の展望

### 5.1. 現在の課題

現在 The ALL Rooms の抱える課題は主に3つある。まずは、The ALL Rooms そのものの認知度が低いことである。ニュースレターを配布したり、パンフレットを作成したり、案内掲示板を作成したり工夫をこらしているものの、いまだに学生に対する周知度が低い。次に、具体的なプログラムがないことにより、明確な目的と動機づけがない利用者が有効に活用できない事である。The ALL Rooms 自体、学習者の自律性を尊重する設備である一方、筆者の経験によると、現在の中学高校教育の流れは、教師が生徒用にプログラムを組み、そのプログラムに生徒が乗かって学習をおこなうという傾向が強い。つまり、The ALL Rooms の理念と現状の折り合いをどうつけるかというところにある。3つ目は、運営上の問題で

あるが、過去2年半、試行錯誤を重ね、様々な取り組みを行ってきた一方で、システムの自動化やマニュアル化にはまだ遠い道のりがあることである。いったん、これまでの軌跡を整理し、システム化を試みる必要性がある。

## 5.2. 今後の計画

前述の課題を改善するために、現在着目しているのが、CEFR-J 第一版 (牧野, 2012) にのっとった秋田大学 ALL Rooms Can-Do リストに基づいた基本プログラムの開発である。

CEFR-J は欧州共通言語参照枠 (The Common European Framework of Reference, CEFR) をベースに、日本の英語教育での利用を目的に構築された、新しい英語能力の到達度指標である (牧野, 2012)。もともと欧州の学習環境ではなく、日本の学習環境を基盤として作成されたのが CEFR-J である。

Can-Do リストとは、該当項目を「できる自信がある」という記述リストであり、近年英語学習分野で注目されている、学習者の目線に沿った具体的なリストである。たとえば、CEFR-J (牧野, 2012) の A2.2 のレベルで、「簡単な英語で、意見や気持ちをやりとりしたり、賛成や反対などの自分の意見を伝えたり、物や人を較べたりすることができる。」という表記がある。The ALL Rooms 独自の Can-Do リストでは、例としては、「学生スタッフと 10 分間会話をつづけることができる」というような項目を示すことで、利用者は具体的に何を目標せばよいかのかが明確になる。

作成の段階の特徴として 3 点挙げる。まず、The ALL Rooms の基本方針である「学習者の学習者による運営」に基づき、学生スタッフが分担してリストの基盤を作成する。次に、英語教育・言語習得を専門とする教員の意見を参考に、修正をおこなう。そして、スタッフトレーニングで実際にパイロット試行と討議を重ねて新年度からの実施に備える。このプログラムを利用者に提供することで、多くの利用者が、すべきことに対しての明確化ができ、効率的に英語力をつけていくことを願う。

## 6. おわりに

本論文では、オープンから 2 年を経過した The ALL Rooms の軌跡と、現状、利用方法、そして、今後の展望について報告した。

現段階では、目的をもって自律的に利用した多くの学習者は、その目標を達成できたことから、The ALL Rooms の方針が間違っていなかったことが確認できたことが最大の収穫であろう。形として The ALL Rooms が見え始めたのは、立ち上げの中心となってくださった教授、支えてくださった先生方、そして、常に支援し続けてくださっている本学学長と教育推進総合センター長の存在と、学生スタッフ・利用者の学生のおかげである。

英語を習得するということは、日本人にとって永遠の課題でもあり、奥が深い。利用者の数だけ、学習方法も異なる。それゆえに、各学習者が自分に適した学習方法を模索し、言語を磨いていくことができる可能性を秘めたこの設備を、より多くの学生が利用することで、未来を開いていけるようなシステムづくりを作っていくことで、秋田大学・そして学生への貢献をしていきたいと筆者は考えている。

## 引用・参考文献

- Benson, P. (2011). *Teaching and Researching Autonomy*. UK: Pearson.
- Hamada, Y. (2011). Improvement of listening comprehension skills through shadowing with difficult materials. *The Journal of Asia TEFL*, 8 (1), 139-162.
- Murphey, T., & Arao, H. (2001). Reported Belief Changes through Near Peer Role Modeling. *TESL-EJ*, 5 (3), Retrieved from <http://tesl-ej.org/ej19/a1.html>
- Nation, P. (2001). *Learning vocabulary in another language*. Cambridge: Cambridge University Press
- Sykes, J. (2011). Establishing self-access in Akita University. 秋田大学教養基礎教育研究年報, 13, 69-77
- The ALL Rooms (2012). <http://www.akita-u.ac.jp/allrooms/>
- TOEIC test new official book.vol.3. (2009). TOEIC organization committee: ETS.
- 門田修平 (2012). 『シャドーイング・音読と英語習得の科学』コスモピア



門田修平・玉井健 (2005).『決定版英語シャドーイング』  
コスモピア  
神崎正哉・小林美和・森田鉄也 (2010).『TOEIC テスト  
新・最強トリプル模試2』The Japan Times.  
小石裕子 (2011).『新 TOEIC TEST 英単語 出るところ  
だけ!』アルク  
玉井健 (2004).『英語シャドーイング』英語スター編  
vol.1. コスモピア

八島智子 (2003)『外国語コミュニケーションの情意と  
動機』関西大学出版部  
投野由紀夫 (2012) *CEFR-based framework for ELT in  
Japan*. [http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/tonolab/  
cefr-j/index.html](http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/tonolab/cefr-j/index.html)  
吉村昇 (2012). 第2期吉村プラン [http://www.akita-u.  
ac.jp/honbu/info/in\\_plan.html](http://www.akita-u.ac.jp/honbu/info/in_plan.html)